

2012 「ほおずき市」にて
photographed by Reiko Matsui



平成 24 年 №41
おぼん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1 丁目 9 の 1
でんわ 047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺

あたりまえのことを

あたりまえに行なう

当山住持

入梅、そして 暑さの到来と共に、ご先祖さまを特にご供養申し上げる「盆月（ぼんづき）」がめぐってまいりました。昨年三月十一日、未曾有の東日本大震災以来、被災地の皆様方には、元の生活には ほど遠い不自由な暮らしと 心痛な思いの日々を過ごされていることを改めて、心よりお見舞いを申し上げます。七月、八月の「盆月」を迎えても、お盆の行事も、ご供養も、何かと思うにままならないのではないかと・・・と思いを寄せています。

当山では、先月初旬に檀信徒皆様のおかげをもちまして、前住職の十七回忌

報恩法要を、特に親しいご縁の深い皆様と、ねんごろに、にぎにぎしく修行することができました。前住職も、皆様方の信仰心の篤さをさぞかし喜ばれていることでしょう。

この報恩法要をふりかえってみて思うに、「あたりまえのことをあたりまえに」勤めることができたということ、まことに有難いことでした。まさに、感謝、感謝でございます。

世の中には、何らかの理由で「あたりまえのことあたりまえに」、「普通のこと普通に行なうことができない方が大勢いらっしゃいます。檀信徒の皆様方には、前住職の報恩法要によって受けられた功德を、あまねく皆様にめぐらしていただき、そして、皆様方のご先祖様へのお盆の行事に、「感謝報恩のま心」をもってさらにご精進くださいますよう、念じ上げております。



合掌

先代さまの報恩法要

既報の通り、六月七日から八日にかけて、新井寺本堂において、先代方丈様（前住職）新井寺廿八世 中興黙承憲孝大和尚（ちゅうこうもくしょうけんこうだいおしょう）様の十七回忌報恩法要が厳かに営まれました。七日の速夜法要を、現方丈様の学生時代からの法友である 埼玉県久喜市 常徳院ご住職 神田義昭老師に、また、八日の正當法要を先代方丈様が長い間ご修行された可睡齋の佐瀬道淳齋主老師に、それぞれお勤めいただきました。

このたびの法要は、先代方丈様や現方丈様と特にご縁の深いみなさまばかりにおまいりをいただきました。「先代方丈さまにおまいりすることができたのもありがたいことでしたが、懐かしい人たちに会えてうれしかった」という声も聞かれ、先代方丈さまにつながるご縁を深めた法要になりました。

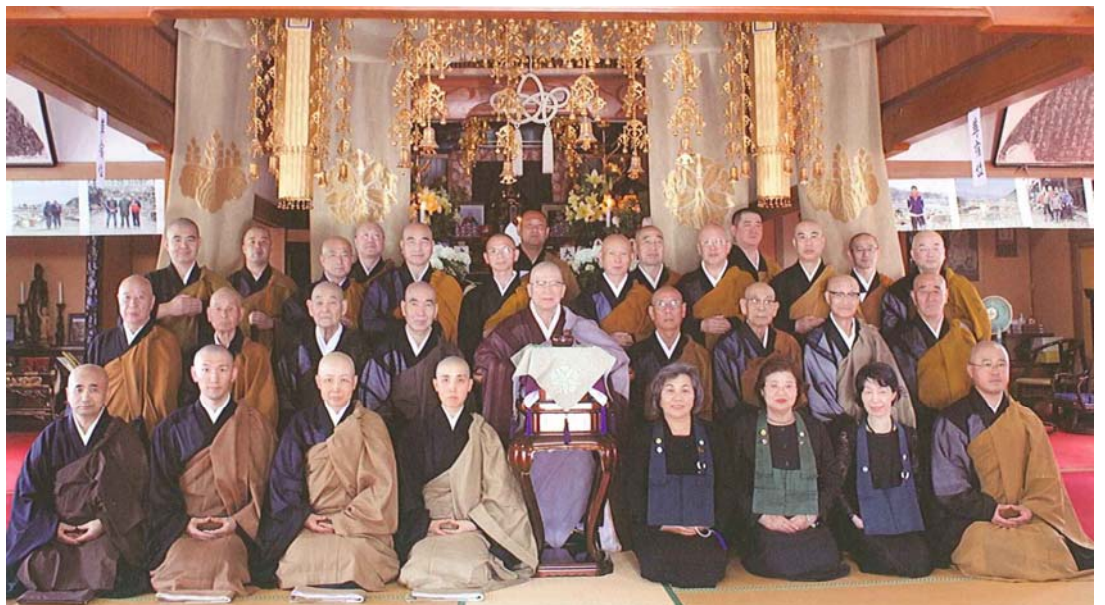
ご垂示

可睡齋齋主 佐瀬道淳

長時間にわたりました厳肅な儀式が、ようやく終わりました。みなさん方、お疲れだろうと思います。お拝を何回もしましたから、汗はかきましたけれども、さわやかな風が本堂のなかを吹き抜けております。それと同じように、私もさわやかな満たされた気持ちにいまなっております。と申しますのは、こんなにありがたい大法要の導師を勤めさせていただいたという喜びで満ちております。

①この文章は法要当日のご垂示（ご法話）を編集子が録音し、雰囲気伝えるために、できるだけ忠実に書き起こしました

高階禅師様は私にとりまして法の上の「おじいさん」になります。それから、松井憲孝先代方丈さまは、法の上では「おじさん」になりますし、それからもうひとつ、私にとっては法幢師（ほうどうし）という長老になるときの導師さんというか、式師をお勤めいただいて、生涯のうちに三人の師匠を持ちますその中の大事な「法幢師様」でもございます。そういう方がた、それから最後の松井素準（そじゅん）さんも、昭和二十九年に可睡齋に安居（あんご・修行）したとき、同安居の、ほんとうに親しい親しい



法要を終えて皆さんで記念写真

「道の友」といいますか、「法の友」なんです。そういった方々の法要に導師として勤めさせていただいたということは、ほんとうにもったいない、ありがたいことだと思っております。



主 齋 齋 可 睡 齋 齋 主
正 當 焼 香 師 可 睡 齋 齋 主
佐 瀨 道 淳 老 師

ここの家風というのか、いまの堂頭（どうちよう・住職）さんの家風は、信仰の根幹は、いつも口癖のように「一仏両祖（いちぶつりようそ・お釈迦さま・道元禅師様・瑩山「けいざん」禅師様）」ということを言っておられます。それから、何年前かに 先代さんの法事に合わせて量孝さんの法戦式がありましたときに、冊子が出ました。そのときも、その姿を見ながら自然にわいてきたことばが、「孝順心（こうじゅんしん）」ということなんですが、「親孝行」ということなんです。そのことが今日も浮かんできます。それからもうひとつは、「報恩」、「行持報恩（ぎょうじほうおん）」という『修証義』のなかにもありますが、この堂頭さんを見ておると、「報恩行、報恩行」と言われていますね。



の 来 焼 香 師 40 年 来 の 焼 香 師 齋 齋 主
と 速 夜 焼 香 師 齋 齋 主
ま 違 夜 焼 香 師 齋 齋 主
と 法 友 齋 齋 主
現 方 丈 齋 齋 主
法 友 齋 齋 主
お 勤 徳 院 神 田 義 昭 老 師

だから、「一仏両祖」ということと「孝順心」ということと「報恩行」ということが、三点セットでこう浮かんできます。みんな大事なことばかりですけれども、なかなか普段 私どもは実行できませんけれども、この方丈様はね、そのことを貫いておられる。そのかたまりが、今日もまたこういった法要になっておると思っています。親孝行。

それから、「高階禅師様、高階禅師様、自分のお師匠様」、それに誇りを持っていつもおっしゃっておる。私も同じようなことなんです。なかなかそこまではいきませんけれども、ほんとうに感心なことだと思っております。高階禅師の孫弟子の いま 時代になっておりますが、私が孫弟子のなかでいちばん年上なものですからね、私を立てていただいております。感謝しております。

それからもうひとつ、この方丈様の大きな特色は「ご縁」ということを非常に大事にされる。今日もね、普通は先住忌なんていったら、教区の御寺院さんが中心になって営むわけですけれども、「今日は、高階禅師様、憲孝方丈様につながる、あるいは自分の大学・本山での修行につながるご縁の方ばかり集まってもらったんだよ」と、こう言っておられる。その通りなんです。だからね、色んなご縁の方が今日は集まって、ご法事が勤められたということなんです。これもね、ほんとうに大事なことです。すが、なかなかまねのできないことです。「ご縁」も大事です。ほんとうにね。

今日も九州からもたくさん来ておられますし、昨夜（ゆうべ）帰られましたけれども、南米ブラジルからも、お出でになっていました。それから、可睡齋とのご縁があるんで、いま、私は可睡齋の住職になりましたのでね、可睡齋の齋主として今日は導師を勤めさせていただいたということなんです。

そういう現方丈さまのいくつもの篤い思いをもつての今日のお勤めでございました。それがほんとうにさわやかな心で私にも伝わってきますのでね、みなさんもそうだと思います。今日は、みなさん方もよくおまいりくださいました。

おしゃかさまの誕生祭

ブツダ・ジャンテイ

五月六日、新井寺を会場に、お釈迦様の誕生祭「ブツダ・ジャンテイ」が開かれました。スマナサーラ長老をはじめ、四人のテーラワータ仏教の和尚さん、日本在住のネパールのみなさんなど、百名近い人が集いました。ネパール式の法要、日本の法要、昼食には、ネパールの食事をいただきました。

スマナサーラ長老は、「生きとし生けるすべてのものがしあわせでありますように」というお釈迦様の教えの原点をわかりやすいことばで説かれました。日本仏教は、ご先祖様を大事にする「先祖供養」が柱と言ってよいと思います。ネパールでは、お釈迦様はごく身近で親しい存在なのだということを感じました。お釈迦様の教えは決してむずかしくはなく、自分たちのくらしのなかにある。そのことを改めて学ばせていただいた一日になりました。



スマナサーラ長老

ネパールの旅のおさそい



ルンビニ参拝とサパナさんとスニタさんに会いに行こう

重ねてご案内をしておりますが、今秋「おしゃかさまご生誕の地ルンビニ参拝とサパナさんとスニタさんに会いに行こう」の旅にまいります。

サパナさんとスニタさんは、平成二十年四月から約三ヶ月間、新井寺で「ホームステイ修行」していたネパールの尼僧さんです。お釈迦さまご生誕の地ルンビニでは、本年「ルンビニ観光年」として、国を挙げての観光誘致活動が行なわれています。また、ネパール的一般仏教寺院やチベット仏教寺院のおまいり、首都カトマンズ・世界遺産めぐり・・・など、さまざまな宗教文化・自然・風土を肌で感じていただける旅になると思います。お友だちをお誘いになって、どうぞご一緒にまいります。みなさまのご参加をお待ちしております。

日にち 平成二十四年

十一月四日(日)～九日(金)

費用 二十四万円くらい

◎ 詳細、ご不明な点は、お気軽にお寺へおたずねください。

編集後記



自分はいつからこんななせつかちで気が短くなつたのだろうかと思うことがあります。「いそがしい」とか「せわしない」ことを理由に、先ばかりが気になつていま・この脚下が見えていない大地に脚がつけていない自分に気がつきません。「忙」という字を「心を亡(ほろ)ぼす」と読んだ人がいます。わたしのこゝだと思いましたが、まわりが見えていない。周囲にも自分にも心を配る余裕がない。そのことにじっくり向き合えていないがために、自分で自分を窮地に追いこんでしまっている。冷静になれば、動じるようなことではないことでも、万事が不安定であるが故に、おろおろ・ふらふらしてしまっている。そういう自分に気づくことができないときさえあります。

「いま・ここ・このこと」にどっしりと身心をおいて、そのことに向き合う。忙しいとき、いっぱい、いっぱいするときこそ、じっくり、丁寧に向き合っていく。窮地のときにこそ、姿勢を正して、ひと呼吸をおくということが大切なのだと思います。そして、そのことがほんとうに「いま」を充実して生きていくということなのだと思えます。

暑さきびしき毎日、どうぞご自愛ください。